

施設卒園 18歳で就職

ここにいるよ

沖縄 子どもの貧困

⑦

第1部 群像

虐待など、さまざまな理由で、

親元で暮らせない子どもたちが
集団で生活する児童養護施設。

県立高校3年のナオキ(18)はこ
の春、施設を出て独り立ちする。

県外のホテルチェーンに就職
が決まっている。こつこつと就

職活動が続け、勝ち取った内定
だが、「生活費なんかが大変だ

と聞く。やっぱりまだ施設を出
たくない、という気持ちのほう

が強いかな」。不安そうに胸の
内を吐露する。

児童福祉法に基づき、児童養
護施設にいられるのは原則18歳

までと決められている。施設の
子どもたちは親らの経済的な後

ろ盾がないまま高校を卒業する
と自立を余儀なくされる。

「本音を言えば、専門学校に

行きたかった」

ナオキの夢は、西洋料理のレ
스토랑を開くこと。そのため

に県内の調理師専門学校へ行く
ことを望んだが、かなう環境で

はなかった。

幼いときに両親が離婚し、父
親の元で育った。父親は「口よ

り先に手が出てしまう人」で、
しつこくとして、ナオキや弟に手

を上げた。ナオキは小学3年か
ら、児童養護施設で暮らす。

父親は建築関係の仕事をして
いるが、経済的なゆとりはなく、

進学のための資金援助はできな
いと言われた。親類にも頼れず、

貸与型の奨学金は後の借金にな
る。そう考えて、就職の道を選
んだ。

就職先を選ぶ決め手となった
のが寮が付いていることだっ

本音は、専門学校に行きたかった

た。アパートを借りるとなれば、
家賃や保証人の問題が出てくる
からだ。

県外に決めたのは、「厳しい
環境の中で自分を鍛えたい」と
いう思いのほか、金銭を要求し
てくるかもしれない父親を避け

るためでもあった。

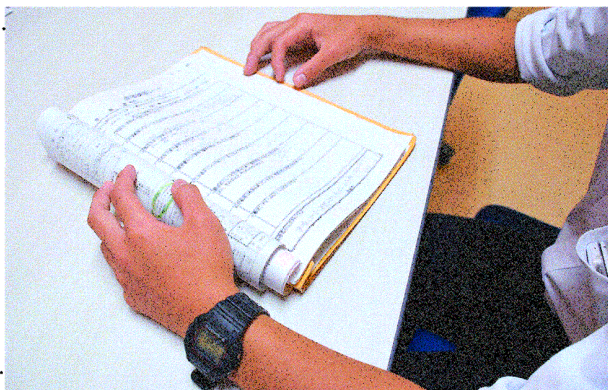
県によると、児童養護施設に
入所する子どもの家庭の25%が
生活保護世帯、65%が市町村民
税非課税世帯で、低所得世帯が
9割を占める。経済的に親に頼
れない子がほとんどで、ナオキ
のように高校卒業後、就職の道
を選ぶ子が約7割に上る。

県内で、児童養護施設出身者
を対象にした学資・生活費支援
の動きが広がりつつあるが、ま
だ十分ではない。また、いった
ん就職しても、離職する子の割
合が高い。県児童養護協議会の
調査では、就職した子の4割近
くが1年以内に辞めていた。

虐待された子の中には、心に
深い傷を負い、自分や他人を信
じられず、仕事でのちよつとし
た失敗で挫折したり、困っても
SOSが出せない子がいる。児
童養護施設を退所した子が自立
するためには、経済的サポート
とともに、卒園後の、きめ細か
い継続したアフターケアの充実
が必要だ。(文中仮名)

(「子どもの貧困」取材班・
高崎園子) 〓火々木曜日掲載

就活に使った資料を手にする
ナオキ。努力が実り、校
内で内定第1号となった



記事に関するご意見、情報をお寄せください。

ファクス：098(860)3483 メール：kodomo-hinkon@okinawatimes.co.jp